



Title	寝具とダニ（毛布におけるダニについて）
Author(s)	森田, 和矢; 吉田, 政弘
Citation	makoto. 1986, 54, p. 10-11
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86018
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

寝具とダニ（毛布におけるダニについて）

財団法人大阪防疫協会 森 田 和 矢

大阪府立公衆衛生研究所 吉 田 政 弘

はじめに

家庭内におけるダニ類による人への影響は、ツメダニ類の刺咬による“かゆみ被害”や、アレルギー性疾患の重要な抗原の1つとしてチリダニ類が上げられている。これらのダニ類の防除に関しては、ツメダニ類では発生源と考える床材への適切な対応で解決が可能であるが、チリダニ類によるアレルギー性は、ダニの生死に関係なく、また、ダニの糞に認められている事や、我々の日常生活で使用しているあらゆる素材に分布しており、その防除に困難な事が考えられる。従来報告においては、主として床材における知見が多く、使用頻度の高い寝具類における報告は数少ない。今回我々は、使用中のふとんや毛布等の表面でのダニ相を比較検討した。

調査対象ならびに調査方法

寝具類およびそれらのカバー表面のダニ数を調査するため、市販の電気掃除機（H社製、吸込仕事率150W/hr、紙パック式）で調査対象表面積1㎡あたり20秒間作動させ塵を回収した。塵中ダニの分離はワイドマンフラスコーガソリン法により、塵0.025～0.05gを処理した。ダニ数の推定は、回収塵総量と検査塵中のダニ数より推定し、1㎡あたりのダニ

数を求めた。毛布については、クリーニング後の使用期間後における状況も調査した。この場合の掃除機作動時間は1㎡あたり60秒とした。

各寝具類の使用年数は、敷ふとんおよびかけぶとんは約7年、敷毛布10年以上、かけ毛布は約5年でマットは約10年間使用されているものである。通常敷ふとんのカバーは月1回程度、かけぶとんのカバーは2月に1回程度洗濯されているものである。毛

表1 部位別ダニ数

調査箇所	ゴミ量 (g/㎡)	チリダニ類 (/㎡)	その他のダニ (/㎡)	全ダニ数 (/㎡)
A	0.347	1498.9	12.3	1511.2
B	0.159	4805.9	0.6	4806.5
C	0.095	533.6	0	533.6
D	0.031	27.5	0.5	28.0
E	0.043	12.9	0	12.9
F	0.025	27.5	0	27.5
G	0.156	435.3	4.2	439.5
H	0.132	77.5	8.1	85.6
I	0.934	132.5	0	132.5
J	0.009	10.7	0	10.7
K	0.055	17.6	0.7	18.3
L	0.061	17.0	0.7	17.7
M	0.016	22.3	0	22.3
N	0.029	26.8	0.5	27.3
O	0.018	19.5	0	19.5
計		7665.5	27.6	7693.1
%		99.6	0.4	100

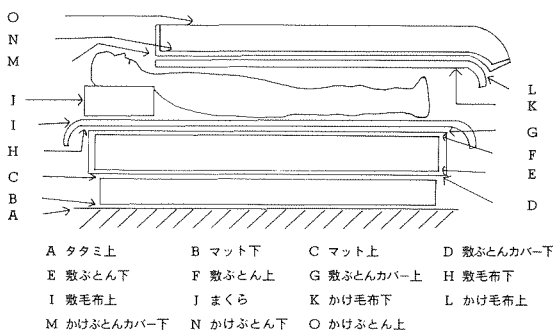
P	0.019	481.8	9.8	491.7
Q	0.128	313.7	13.6	327.2
R	0.066	147.5	6.3	153.8

P：マットの下部タタミ表面

Q：マットの回りタタミ表面

R：押入れ

図1. 調査部位概略図



布については、クリーニング後5カ月経過したもので、床材は20年使用されている本床畳であり、室内の掃除回数は、週に1回程度されている。図1にその概略図を示した。

結果および考察

調査部位別の結果は表1に示す。寝具類表面のダニ数はチリダニ類が99.6%で大部分を占め、他は主にホコリダニ類やツメダニ類が若干認められた。ダニ類の分布を部位別にみると、タタミと接するマット表面(B)で最も多く、次いで敷ふとんカバーと接するマット表面(C)、敷毛布と接する敷ふとんカバー表面(G)でマット表面(B)のダニ数の約1/10程度であった。敷毛布上面においては(B)の約1/35で他の部位では約1/175から1/370程度であった。また、寝具のひかれてある室内の畳表面のダニ相は寝具類とよく一致していた。ダニ数は(B)の約1/3で比較的多かった。これらの調査の1カ月後に、マットと接する畳表面(P)およびそれ以外の畳表面(Q)について調査したが、ダニ数には大きな差は認められなかった。そしてこれらの寝具類を収納する押入床表面(R)でのダニ数は1㎡当り約154であった。

毛布におけるクリーニング後の使用歴にともなう

ダニ数の調査結果を図2に示す。棒グラフで示しているのが、1㎡当りのダニ数を示し、黒点が1㎡当りの塵量を示す。(A)はクリーニング前で(B)は(A)の量を取り除いた後、クリーニングに出しそのあとすぐ調査した。(C)は(B)の量を取り除いて6カ月保管し、その後5カ月使用した。この時のサンプリングは裏表それぞれ1㎡当り20秒で敷毛布は25回づつ、掛毛布は15回づつ、ダニ密度が低くなるまでサンプリングを繰り返した。体側は1㎡当り48個体で、ふとん側は1㎡当り7個体まで落とした。(D)はその後2週間使用した。この図よりクリーニング前のダニ数は、敷毛布の方が掛毛布よりも優位に多かった。なかでも人体と接する側の敷毛布表面でのダニ数は目立っていた。また、クリーニング後の使用歴にともなってダニ数は増加していた。

以上の結果、家屋内におけるダニ類の分布は床材に限らず、日常使用している寝具類表面でも多く分布している事が明らかになり、寝具類に対する適切な管理が必要と考えられる。今回調査したのは、寝具類表面のみを見たが、今後マットやふとん類の中身の調査を行い、寝具類におけるダニ類の分布をより明確にし、床材でのダニ調査とともに、その相互関係を検討していきたい。

図2. 毛布におけるダニ数

